

慶良間諸島海域

(けらまじょうとうかいいき)

位置：北緯26度12分、東経127度21分／標高：0m／面積：8,290ha／湿地のタイプ：サンゴ礁／保護の制度：国立公園海域公園地区／所在地：沖縄県渡嘉敷村、座間味村／登録：2005年11月／国際登録基準：1、2、3、8

湿地のタイプ：サンゴ礁



高い密度で分布する造礁サンゴ



サンゴ礁は熱帯林とともに生物種が豊富な生態系



慶留間島の北岸の景観

湿地の概要：

慶良間諸島は、沖縄本島の西方20～40kmにある渡嘉敷(とかしき)島、座間味(ざまみ)島、阿嘉(あか)島、慶留間(げるま)島など大小30余りの島々と数多くの岩礁からなる島しょ群である。最大の渡嘉敷島で面積は1,500ヘクタール。渡嘉敷村と座間味村の二つの村で人口は1,600人弱。自然度の高い日本でも有数の美しい海域である。

2005年に渡嘉敷島の西岸海域120ヘクタールと、座間味島と阿嘉島間の海域233ヘクタール(合計353ヘクタール)が、ラムサール条約湿地として登録されたが、2014年に一帯が「慶良間諸島国立公園」に指定されたのを受けて、国立公園内の海域公園地区の範囲(8,290ヘクタール)に登録区域が拡大された。

サンゴ礁：

慶良間諸島海域の海中には、テーブル状、枝状、角状、塊状などの造礁サンゴが高い密度で分布し、248種以上ものサンゴが確認されている。特に渡嘉敷島西岸

にはテーブル状、枝状のミドリイシが著しく発達し、場所によってはサンゴの被度は90%以上にもなる。周辺海域はサンゴの幼生の供給源にもなっており、すぐれた景観ばかりでなく、学術的にも貴重な海域である。

サンゴ礁は熱帯雨林とともに生物種が豊富な生態系であり、スズメダイ類やチョウチョウウオ類、ベラ類など、サンゴ礁特有の、色彩豊かな多種多様な魚類が生息している。

エコツーリズム：

この海域は透明度が高く、気候は温暖で、水温も月平均値が20℃を下回ることがなく、ダイビングには絶好の条件を備えており、毎年多くのダイバーが訪れている。かつてオニヒトデの大量発生でサンゴが壊滅的な被害を受けたことがあり、地元

の人々によって熱心にオニヒトデの駆除が行われ、保全対策が講じられている。冬季には、ホエールウォッチングも行われる。

【造礁サンゴ】 サンゴ(サンゴ虫)には、サンゴ礁を形成するものとしらないものがあり、サンゴ礁を形成するものが造礁サンゴである。造礁サンゴの体内には藻類の褐虫藻が共生し、彼らの光合成作用によって炭酸カルシウム(石灰)の分泌が促進され、サンゴ礁が形成される。造礁サンゴの代表がミドリイシで、群体形が多様でテーブル状や枝状、塊状など変化に富んでいる。

●関係自治体

渡嘉敷村役場 Tel: 098-987-2321

座間味村役場 Tel: 098-987-2311

